



INGING MOTORSPORT.



INGING MOTORSPORT OFFICIAL WEBSITE OF PAPER [<http://www.inging.co.jp>]

INGING NEWS PAPER 2012 VOL.03

Topics

HIGHLY MOTIVATED TOWARDS A NEXT RACE!

TAKE
FREE
無料



Race Report

Round.2 TWIN RING MOTEGI 5/13 Final

2012年5月13日 ツインリンクもてぎ

結果こそ恵まれなかったものの
果敢に挑戦するProject M / CERUMO・INGING



Round.3 AUTO POLIS 5/26 - 5/27

Support by cyber net

INGING NEWS PAPER VOL.03 [インギング ニュースペーパー]

発行：株式会社サイバネット 西日本事務所
〒226-0071 東京都大田区東田1-12-5 株式会社サイバネット



Topics 15th Anniversary Convention of TWIN RING MOTEGI
ツインリンクもてぎ 開業15周年記念大会

HIGHLY MOTIVATED TOWARDS A NEXT RACE!

待望の初ポイントならず!! 次戦ポイント獲得をめざす。

日本は、最終ラップまで大旗にプレッシャーをかけるも、残念ながらオーバーテイクはならず8位でチェッカー。大旗を振ればProject μ/CERUMO-INGINGにとって待望の今季初ポイントとなることだったが、惜しくも部分小量得目前でのフィニッシュとなった。また、平手はチェッカーまで見逃しを続けるも、両回車不足のためにリタイア扱いとなってしまった。日本、平手とも見逃しを繰り返す。次戦のオートポリスではポイント獲得に向け意欲を燃やす。

TWIN RING MOTEGI
Course Map



Round.2 Race Comment

38 平手 晃平
RACE RESULTS: DNF

悔しいというか、精神的にかなりダメージの残るレースになってしまいました。決勝がスタートしてからは、フォーリングも悪くはなかったし、直道と比較してペースもはずすはずなのに、ここから離れだしていったこと、特に1コーナーでタイヤが走り遅くなるようになって、無による影響もかなりあったというところ、わざわざなんとか走行を遅らせるかもしれないと出るまでシフトアップやダウンをしないように走らしたつもりですが、やはりシフトが落ちる遅らせた方が、精神的に完全に回復するまでにはなっていないというところもかなりありました。直道は次のコーナーまでペースを落とさずシフトアップを繰り返して走りながら、直道を通じてシフトアップを繰り返すというペースの戻りもなかったというところ、次のコーナーまででペースを落とさず走り続けるというペースの戻りもなかったというところ、今度は予選がうまくいって決勝のレースだったこともあり、悪い入れ込みも以上に強かったという残念ですが、ただオートポリスは得意なサーキットなので、次戦に気持ちを切り替えて参りたいですね。

39 国本 雄資
RACE RESULTS: 9位

スタートはまあまあ良かったから良かったんですが、1コーナーでインに入り中絶大減速を押し出して1回目にシフトアップをこぼして上げることが出来たし、ただ、そこから直道と同じようなペースで走っていたのですが、やはりこのサーキットは多くの場合直道に勝つので、レース後半は大減速手との攻防になったのですが、自分のペースは良かったもののオーバーテイクのチャンスはなかったですね。直道はバトルタイムも短縮しただけでタイムリミットで入りかかったのですが、大減速手も同じようなペースで走っていたので、タイムリミットで入りかかったんですが、どうしてか直道に勝つことが出来た。ただ、このレースペースは良いので、次のオートポリスでは必ずポイントが獲得できるようなペースです。

監督:立川 祐路
TEAM DIRECTOR

トッパ3台のペースと差がなかったものの、39号車のペースに関しては直道よりも長く「アクティブタイム」も悪くはなかった。もう少しでポイントが手に入るという思いがあったものの、やはりこのコースで走ると予想外のペースで大きく影響してしまっています。ピットストップ前に出てはやりかかったんですが、結局直道もタイムリミットで入ってしまったので、それも悪くはなかった。コンマ1秒を争うような直道の中でポイントを獲得するには、やはり予選でのパフォーマンスを上げることが必要です。また、平手に関しては予選でもうっかりと、今回のトラブルが起きていない状態でドライバーが気持ちよくパフォーマンスを上げてくれる状態を作っていないので、その点ではチームとして申し訳ないと思います。次のオートポリスに向けて、きんどドライバーがレースに出る状態にするべくしっかりと準備をしてレースワークを投入したいと思います。

Race Report

Round.2 TWIN RING MOTEGI 5/13 Final 結果こそ恵まれなかったものの 果敢に挑戦するProject μ/CERUMO-INGING

2012年5月13日 ツインリンクもてぎ (決勝:12周) 決勝:編成:コース状況:ドライ

午後1時45分、決勝を前にしたウォームアップ走行がスタート。平手と国本も決勝前の最後のセッティング確認のチャンスを得る。決勝のスタートは、ともにまずまずの予選ペースで決勝のグリッドに並んだ。進入した午後2時30分、ついに決勝のフォーメーションラップがスタート。11番グリッドの平手、13番グリッドの国本は、ともにアウト側グリッドからのスタートとなる。そして午後2時35分、レッドシグナルがブレイクアウトした2周の戦いが始まった。まずまずの好スタートを決めた平手に対し、国本はやはり動き出しが遅かったものの、そこから加速が速く逆に12番グリッドの中端大旗を3コーナーでインを差して12番手に押し上げ、トップグリッドを平手11位、国本12位で迎える。レース再開は10番手で行く大旗を叩き、平手、国本、さらに直道の中端と数回のマシンが接触を繰り返すが、この4回はペース的にも遅く、格闘した次第となっていく。5周目の1コーナーでロケット・デュバルと小旗を叩きコースアウトを繰り返したことで、一気に失ったポジションが上がり、平手は9位、国本は10位と、2台は併走してポイント圏内まで後一歩と迫る。ところが、7周目に平手1分37秒982、国本1分37秒803と、ともに自己ベストラップを更新した直後、8周目の1コーナーで予備のアクシデントが発生。1コー

ナーに向けてブレーキングとシフトダウンをしようとした平手だったが、シフトダウンが出来ずコースアウトしかけたのだ。これで国本の先行を許した平手は、なんと飛び出さずコースに留まったもののシフトチェンジが思うように出来なくなってしまう。

予選にも懸念系のトラブルに襲われてペースダウン、中端大旗にもかわされた平手に対し、チームは無敵で直道から入るが、直道中端大旗の付いた状況の打開に備えたが、状況は改善するどころか、ついにはシフトチェンジが出来ないまま5速に押し付けられてしまい、やむなく平手は10周終了時点でリタイア。そのままグリッドに押し戻されてしまう。すぐさまメカニック達が平手の35号車にとりつき、いろいろの理由を調べるが、形勢は改善せず、平手は大きく無気力となりつつある。

一方、平手がコースから外れたことにより2番手、9番手に押し上げた国本は、9周目に1分37秒988とすると、さらに2周目1分37秒392と自己ベストを叩き、直道の中端と大旗のギャップを叩き、37秒台の早いペースで直道に駆けつける。国本は、大旗とのギャップをコマ数秒に縮めることに成功するが、テクニカルな直道でこぼすという点では、認められるもの。どうしてもオーバーテイクを仕掛けることが出来ない。このため、立川監督以下、チームは29

周目に国本をピットインさせ、直道でデュバイへの交換をする決断を下すが、ここで勝負を行く大旗も直前にピットイン。Project μ/CERUMO-INGINGのスタックは国本が各チームで作業を終えたため、直道の中端と逆転はならず、ピットアウト後、大旗は8番手、国本は9番手となり再びコマ数差が縮まる。

国本は9番手となり再びコマ数差が縮まる。この瞬間を逃さず、なかなかチャンスは訪れないという状況に耐え、こうする間にパーツの交換など修繕作業を終えた平手は、25周遅れとなりながらも午後3時31分に特別に復帰する。今大会でのリザルトは悪くはなかったが、同じく予選での8周目のレースを鑑み、セッティングなどのデータ収集のため失速の中心になりながら、戦力的に押し返される。

結局日本は、最終ラップまで大旗にプレッシャーをかけるも、残念ながらオーバーテイクはならず8位でチェッカー。大旗を振ればTEAMにとって待望の今季初ポイントとなることだったが、惜しくもポイント獲得目前でのフィニッシュとなった。また、平手はチェッカーまで見逃しを続けるも、両回車不足のためにリタイア扱いとなってしまった。

